

製品名: AR α 2A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07083**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	ADRA2A
別名	ADRA2A; ADRA2R; ADRAR; Alpha-2A adrenergic receptor; Alpha-2 adrenergic receptor subtype C10; Alpha-2A adrenoreceptor; Alpha-2A adrenoceptor; Alpha-2AAR
遺伝子 ID	150.0
SwissProt ID	P08913
免疫原	抗血清は、ヒトアドレナリン受容体 α -2A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

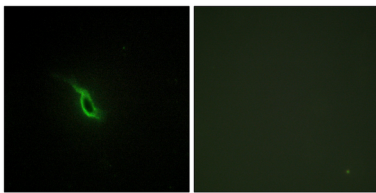
背景

$\alpha 2$ アドレナリン受容体は、G タンパク質共役受容体スーパーファミリーに属します。 $\alpha 2A$ 、 $\alpha 2B$ 、 $\alpha 2C$ という3つの相同性の高いサブタイプが含まれます。これらの受容体は、交感神経および中枢神経系のアドレナリンニューロンからの神経伝達物質放出の調節において重要な役割を果たします。マウスを用いた研究では、心臓の交感神経および中枢ノルアドレナリンニューロンからの伝達物質放出の正常なシナプス前制御には、 $\alpha 2A$ サブタイプと $\alpha 2C$ サブタイプの両方が必要であることが明らかになりました。 $\alpha 2A$ サブタイプは高刺激周波数における伝達物質放出を抑制し、 $\alpha 2C$ サブタイプは低レベルの神経活動における神経伝達を調節しました。この遺伝子は $\alpha 2A$ サブタイプをコードしており、コード配列にも非翻訳配列にもイントロンは含まれていません。 [RefSeq 提供、2008年7月]機能: $\alpha 2$ アドレナリン受容体は、G タンパク質を介してカテコールアミン誘導性のアデニル酸シクラーゼ阻害を媒介する。この受容体の作動薬の効力順位は、オキシメタゾリン > クロニジン > エピネフリン > ノルエピネフリン > フェニレフリン > ドーパミン > p-シネフリン > p-チラミン > セロトニン = p-オクトパミンである。拮抗薬の効力順位は、ヨヒンビン > フェントラミン = ミアンセリン > クロルプロマジン = スピペロン = プラゾシン > プロパノロール > アルプレノロール = ピンドロールである。類似性: G タンパク質共役受容体1ファミリーに属する。、

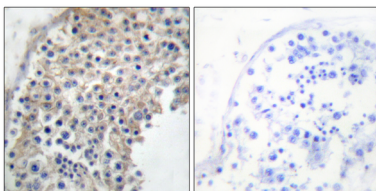
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

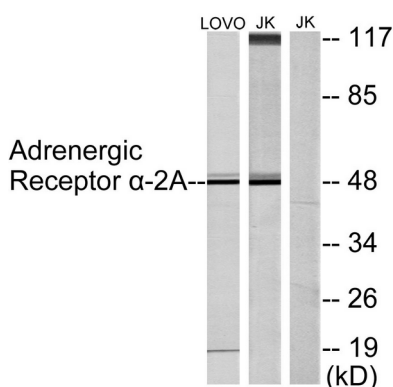
画像データ



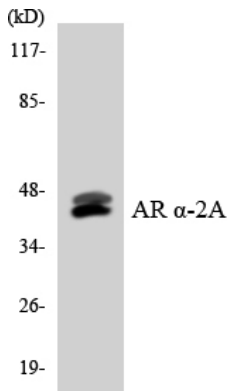
アドレナリン受容体 α -2A 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



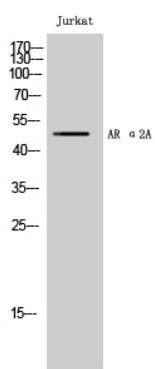
アドレナリン受容体 α -2A 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト精巣組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



アドレナリン受容体 α -2A 抗体を用いた Jurkat 細胞および LOVO 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



アドレナリン受容体 α -2A 抗体を使用した Jurkat 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。



AR α 2A ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析